

平成 21 年 6 月 25 日

長岡市教育委員会（定例会）会議録

長岡市教育委員会



1 日 時 平成 21 年 6 月 25 日 (木曜日)  
午後 3 時 30 分から午後 5 時まで

2 場 所 長岡市教育委員会会議室

3 出席委員

委員長 大橋 岑生 委員 内藤 博子 委員 羽賀 友信  
委員 中村 美和 教育長 加藤 孝博

4 職務のため出席した者

教育部長	野口 正巳	教育総務課長	押見 康雄
学務課長	武樋 正隆	学校教育課長	腮尾 理
子ども家庭課長	矢沢 康子	保育課長	若月 和浩
中央公民館長	葦沢 豊	中央図書館長	小野田 信子
科学博物館	山屋 茂人	教育センター所長	山岸 文夫
学校教育課主幹管理主事	星野 和人	学校教育課主幹管理主事	島倉 昭宏

5 事務のため出席した者

教育総務課庶務係長 新沢 達史 教育総務課庶務係 小川 瑞穂

## 6 議事日程

日程	議案番号	案 件
1		会議録署名委員について
2	第 36 号	専決処理について（附属機関委員の委嘱について）
3	第 37 号	専決処理について（補正予算の要求について）

## 7 会議の経過

（大橋委員長） これより教育委員会 6 月定例会を開会する。

---

（大橋委員長） 日程に入る前に、確認事項がある。本日報道機関の傍聴があり、写真撮影についての申出があったが、これを承認してもよいか。

[「異議なし」と呼ぶものあり]

（大橋委員長） 異議なしと認め、写真撮影を許可する。

---

### 日程第 1 会議録署名委員について

（大橋委員長） 日程第 1 会議録署名委員の指名を行う。会議録署名委員については、会議規則第 44 条第 2 項の規定により、羽賀委員及び加藤委員を指名する。

---

### 日程第 2 議案第 36 号 専決処理について（附属機関委員の委嘱について）

（大橋委員長） 日程第 2 議案第 36 号 専決処理について（附属機関委員の委嘱について） を議題とする。事務局の説明を求める。

（押見教育総務課長） 専決第 3 号 附属機関委員の委嘱について、長岡市スポーツ振興審議会委員として、新しく池田敏郎氏、渡邊強氏を平成 21 年 6 月 1 日から平成 22 年 3 月 31 日まで委嘱を行うものである。

（大橋委員長） 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

（大橋委員長） ないようなので、これより採決に移る。本件は原案のとおり承認することに異議ないか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

(大橋委員長) 異議なしと認める。よって本案は原案のとおり承認した。

---

日程第3 議案第37号 専決処理について(補正予算の要求について)

(大橋委員長) 日程第3 議案第37号 専決処理について(補正予算の要求について) を議題とする。事務局の説明を求める。

(押見教育総務課長) 専決第4号 補正予算の要求について、平成21年6月補正予算経済危機対策・追加分である。小学校・中学校・養護学校の理科教育設備の整備を経済危機対策で行うもの。金額は、歳出は小学校費64,431千円、中学校費28,424千円、養護学校費200千円である。これに伴う歳入は46,527千円である。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(羽賀委員) 歳出に対し、歳入が少ないが、当初予算に加えて補正がつくのか。

(押見教育総務課長) 経済危機対策で、国から理科教育設備についても追加で対象となった。具体的には備品・消耗品を購入するものである。歳入については、2分の1が通常の補助金、残りの2分の1が交付金である。

(野口教育部長) 補足説明をする。教育費でみると歳入は歳出の2分の1となる。残りの2分の1については特別交付金となり、財政課で補正を組むものになる。市全体の予算としてみれば歳入歳出ともに同額になる。

(大橋委員長) 文部科学省の施策に基づく補助で、それに伴う補正ということか。

(野口教育部長) そうである。

(加藤教育長) 2点、事務局から説明をしてもらいたい。理科教育設備の中身を教えてほしい。もう1点、学校現場でこの整備を行うことで、どのような教育結果が望めるのか、もしくは不足していたためどういう状況だったのか、教えてほしい。経済危機対策といって環境を整備するチャンスであるが、物ばかりを入れても、効果があるのかどうか伺いたい。

(押見教育総務課長) 整備するにあたり、各学校に要望をとった。金額的な面で申し上げますと、小学校・中学校トータルで生物顕微鏡の買い替え等の要望が多かった。備品として、フラスコなどを支える鉄製のスタンドの要望が多かった。その他、月球儀の要求も多くみられた。その他消耗品も対象となっており、手動発電機、蓄電器等

も多くあった。主に備品関係で小学校 50,000 千円、中学校 28,000 千円、消耗品で小学校 14,800 千円、中学校 2,200 千円である。

(星野学校教育課主幹兼管理主事) 新学習指導要領が平成 23 年度から全面实施され、それに伴い平成 21 年度から算数・理科を中心に新しい内容が先行実施することになっている。そのために、文部科学省が新しい学習内容を行うための補助教材を全児童生徒分配している。その内容は、小学校で「月と太陽」や「水中の小さな生物」という単元が新たに入ったことだ。そのために顕微鏡等が必要になっている。中学校では「水溶液とイオン」という新しい学習内容が入っており、スタンドが必要になっている。各学校が要望しているものは無くてはならないものであると考えている。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) ないようなので、これより採決に移る。本件は原案のとおり決定することに異議ないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 異議なしと認める。よって本件は原案のとおり決定した。

---

(大橋委員長) 以上をもって、本日の日程は終了する。続いて、協議報告事項に移る。6 月議会における教育委員会関係の質問事項について、事務局からの説明を求める。

(野口教育部長) 平成 21 年 6 月定例議会が 6 月 16 日に召集され、最終日が 29 日となっている。一般質問は 16 日からの 3 日間行われた。教育委員会の主管である文教福祉委員会は 22 日に終了した。まず、一般質問から説明する。長谷川一夫議員からは「資料館について」質問があった。次に、桑原望議員からは「廃校の活用について」の質問があった。次に、藤井達徳議員からは「子育て支援について」「スクール・ニューディール構想について」質問があった。次に、加藤尚登議員から「学校給食の完全米飯化について」の質問があった。次に、丸山勝総議員から「学区外就学区域における諸課題について」の質問があった。次に家老洋議員から「子どもの学力と現在の教育現場について」の質問があった。続いて、文教福祉委員会の教育委員会関係の質問である。まず加藤尚登委員から「農水省の家庭用炊飯器による米飯給食事業につ

いて」質問があった。次に大平委員から「現在の厳しい雇用環境のもとでの教育費の諸問題について」質問があった。次に中村委員から「予防接種について」の質問があった。次に細井委員から「教育委員会関係の小規模工事等の随意契約について」質問があった。次に家老委員から「定例教育委員会」についての質問、意見があった。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(中村委員) 家老委員の「以前行っていた出前教育委員会」とはどのようなものか。

(野口教育部長) 平成 13 年に心の教育の必要性が求められた時に、旧長岡を 8 区にわけ、そこを訪ねて教育委員と事務局で懇談会を行ったことがあった。懇談会を始める前に定例会を行っていた。平成 13 年度から平成 14 年度の 2 年間行った。

(加藤教育長) 補足をさせてもらう。加藤議員の今後の学校給食への質問については、学識経験者、教員、保護者代表で協議の場を設け、食育のあり方、給食のあり方等様々な観点から意見交換を行い、家庭にもアンケートを行って検討することで対応していきたい。

(武樋学務課長) アンケートについて説明する。昨年度の本会議、文教福祉委員会で質問が出た際、実施を約束した。人選や協議内容を今後確認し、年内にはアンケートを行えるよう現在準備中である。

(加藤教育長) 食事は人間が生きていくうえで大事なものであり、共通の話題である。保護者の関心事項でもある食育を通して家庭教育の突破口になればと考える。意識を持っていることを広くアピールしていきたい。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) ないようなので、次に平成 21 年度学校・子どもかがやき塾夢企画事業の実施校について、事務局から説明を求める。

(腮尾学校教育課長) 学校・子どもかがやき塾は、学校長の裁量で使える予算を 1 校あたり 40 万円配当しているが、その他個性的なものに対し、夢企画としてプラス加算を行う事業である。小学校については、全部で 20 校から応募があり、教育委員会で厳正に審査を行った。学級数等によって配当額が変わってくるが、最高 30 万円を配当している。同じ企画では 2 年までとしており、今年は阪之上小、表町小、四郎丸小、寺泊小、与板小の 5 校が昨年からの引き続きの事業である。今年の特徴として

国体が開催されるため、希望が丘小学校及び越路西小学校で国体に関する夢事業を企画している。十日町小学校については、小中連携である。大積小学校は総合学習を取り組む。和島小学校は今年度開校した学校だが、学校を花でかざるという内容で花壇作りを行う。栃尾南小学校は刈谷田川の有効活用を目的としている。中学校は、全部で14校の応募があり、2倍の倍率となった。7校のうち南中、旭岡中、越路中の3校が2年目の継続企画。北中、西中はオアシス、癒し空間という花壇の整備を中心とした企画。中之島中学校の企画は小中連携に近いものである。与板中学校はワイワイトープという校長のネーミングのもので、観光ボランティア体験等の夢企画を行う。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(大橋委員長) 羽賀委員も講師として旭岡中学校の夢企画に参加される。

(羽賀委員) 「シャプラニールの活動への協力」については、学校を超えて支援をし、学ぶ幸せを広げる活動として、これを紹介したい。学年を超えて継続するようにし、中にはフォートワース派遣事業や総合学習をおこなったいろいろな子どもも参加している。

(加藤教育長) 夢企画事業については定着してきており、喜んでいる。市外から人事異動で赴任した教員が教育委員会の支援に驚いている。その地域だけでなく、教員、子ども、保護者に広く周知してほしい。他校が見に行っても良い。いろいろな人に見てほしい。議員からも見てほしい。いろいろな批判を受けることも大事である。

(大橋委員長) 他に質疑、意見がないようなので、次に平成21年度地域・子ども元気塾助成事業助成団体について事務局から説明を求める。

(腮尾学校教育課長) 地域・子ども元気塾助成事業については、4年目を迎える事業で、子どもを対象に活動する団体、NPO等を育成し、支援を行うもので、6月7日に公開審査を行った。事業内容の評価の観点、育成支援の必要性の観点、熱意意欲の度合いの3つの項目について審査を行い、6割以上の評価を得た団体に補助を行う。申請団体は12団体で、今年度はすべて助成を行う。課題として同じ事業では3回を限度としており、昨年は19団体の申請があったが、6団体が3回の助成を受けており応募できず、全体の申請が減ってきている。予算的には13団体を予定していた。いろいろな広報を行い、NPO団体等へ直接ダイレクトメールを送り、各支所に申請書を設置した。今年も5団体が3回目の助成のため、来年度も団体の確保が課題とな



る。市民センターの助成制度は育成を行う「はじめの一步」と、事業の拡充の「もっと！パワーアップ」の2つがあり審査を行っている。それをふまえて次年度までに検討を行いたい。

(羽賀委員) いろいろと声をかけてもらうのはありがたい。事業について、学校側からは見えるが、地域からは難しい。特に3回で助成が終わるのは難しい。広報の方法を考えてほしい。

(内藤委員) 市民センターの活動も知られていなかった。助成を受けた団体が地域へ説明に行き、その後申請団体が増えた。

(大橋委員長) コミュニティセンターは活動の拠点。連携はどうなっているのか。

(腮尾学校教育課長) 以前は申請があったが、今年度はなかった。委員の皆さんの意見を参考にさせてもらう。

(大橋委員長) 他にないようなので、次に平成20年度麻しん予防接種の実施結果について、事務局から説明を求める。

(矢沢子ども家庭課長) 麻しん、つまりはしかの予防接種の実施結果だが、1歳、年長児については、平成18年度から開始され、中学1年、高校3年については昨年からは5年間にわたり実施される。この措置により高校卒業時点で2回の接種が行われ免疫がつくということになる。中学1年生については、医療機関、学校、家庭が連携をして取り組んだ結果、97.4%の接種率となった。長岡市では集団接種の形をとっておらず、個別接種の中では長岡市は加茂市につづいて2番目に高い接種率になっている。課題として1、2、4期については目標の95%に達していない。今年度はこれまで以上に呼びかけを行う。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(加藤教育長) 接種率目標の95%とはなにか。

(矢沢子ども家庭課長) 国が定めている目標率で、95%の接種があれば、感染症対策として効果があるといわれている。慢性疾患のため接種できない場合や、事前に接種を行った人もいるため、95%は100%とみてもよいと言われる。

(大橋委員長) 1歳、年長児の接種率が低い。

(矢沢子ども家庭課長) これまでは95%以上の接種率だった。

(羽賀委員) 予防接種を拒絶している人もいるのか。

(矢沢子ども家庭課長) 中にはいる。ただ、保健師が各学校を回り、接種していない子どもの理由を把握している。主に慢性疾患によるものだが、接種をしない家庭もある。

(羽賀委員) 広報の問題ではないということか。

(矢沢子ども家庭課長) そうである。

(大橋委員長) 他にないようなので、次に 青少年健全育成のつどい「歌手 米良美一氏 講演会」の開催について、事務局から説明を求める。

(矢沢子ども家庭課長) 7月は社会を明るくする運動月間、青少年を非行から守る月間であるため、毎年7月に保護司会の後援をいただき青少年健全育成のつどいを開催している。今年は7月15日に歌手の米良美一氏の講演会「生きながら生まれ変わる」を行う。今回は講演会であるため、歌はないが、障害をお持ちの方等いろいろな方から聞いてほしいため手話通訳を行う。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) ないようなので、次に 子育てフェスティバル2009の開催について、事務局から説明を求める。

(矢沢子ども家庭課長) 第9回子育てフェスティバルが7月18日土曜日に開催される。今回は5月5日にオープンした「てくてく」を会場に行く。先にてくてくの利用状況について報告する。6月23日現在、5月5日から45日で4万5千人の入場がある。一日約千人の親子連れでにぎわっている。ちびっこ広場は年間3万人の利用があるが、予想をはるかに上回っている。来場者の中には赤ちゃん連れでは込み合いすぎていて危険を感じることもあるという人もある。小学生に対してはルールの説明や30分の時間制限を設けたりして保育士が対策を練りながら、運営をしている。子育てフェスティバルについて、今年の特徴は実行委員会が一から立ち上げていることで、実行委員長をはじめ23団体の支援団体等が企画準備を行っている。オープニングイベント等いろいろな企画があるが、中でも思い出のパッチワークについては、今年大手高校の被服科が最後ということで、高校生にも参加してもらうことになっている。公園全体を使ったお散歩ラリーもある。実行委員同士が交流を図りながら作り上げている。

(中村委員) 母子保健推進員の研修で「てくてく」を利用した。帰る時には駐車場がいっぱいで、枠外に停めている車もあった。駐車場は足りているのか、周辺に駐車施設はあるのか、苦情はないのか教えてほしい。

(矢沢子ども家庭課長) 100台の駐車場を確保しているが、大盛況のためなかなか停めるスペースがないようだ。イベント時には公共交通機関の利用を呼びかけている。周辺店舗にはご迷惑をかけているかもしれない。子育てフェスティバルの時は、長鐵工業の敷地を借りることになっている。

(加藤教育長) 陸上競技場の駐車場は借りることができないのか。

(矢沢子ども家庭課長) 借りる場合もあるが、今回は競技場の行事と重なっているためできない。

(大橋委員長) 他にないようなので、次に市内における新型インフルエンザ患者の発生について、事務局から説明を求める。

(若月保育課長) 6月23日午後7時30分に新型インフルエンザの患者が市内で確認された。患者は市内在住の男児。経過としては、6月17日フィリピン旅行から帰国し、翌日事業所内保育施設に登園したが、夕方発熱した。事業所内保育施設は勤めている親の子どもを預かる施設。20日には開業医を受診し、翌日は日曜日のため自宅療養、月曜日に熱が下がり保育施設へ登園したが、再度熱があがり、開業医を受診、インフルエンザの感染が確認された。現在は自宅療養中である。濃厚感染者は両親、祖父母及び事業所内保育施設の園児で、両親については昨日陽性が判明し、園児については、保健所が追跡観察を行っている。市の対応としては県からの要請を受け、防災対策本部から臨時休業の対応を要請し、24日、25日、26日の3日間休業としている。市内学校、幼稚園、保育園の対応については、通常通りとし、改めてうがい、手洗いの励行を再度周知する。コールセンターの体制は現行どおり、イベント・行事等の対応も予定どおり実施、市民への対応は正確な情報を速やかに提供し、冷静な行動を呼びかけ感染予防を呼びかけている。

(武樋学務課長) 引き続き、新型インフルエンザ臨時休業の具体的な対応について説明する。従来から弱毒性とは言われていたが、平成21年6月19日付け文部科学省の新型インフルエンザに関する対応についてに準じ、学校からの報告等手続きの方法は、長岡市学校保健の手引きに準ずる。市内に患者が発生した場合、情報を得た課長

が教育総務課長に一報を入れ、教育総務課長は、関係者に連絡をすることとなり、2つの対応がある。園児児童生徒に発生した場合、感染者の行動を詳細に把握し、情報を収集する。これは接触者がクラス単位か学年か学校かを判断するため、休業の範囲を決定するものである。休業の範囲については、学校の場合、学校か、学級か、こういった行動があったかによって教育委員会が決定する。保育園の場合原則休園とするが、就労している家庭の子どもを預かる施設のため、やむをえない場合相談に応じて該当の園において受入れを行う。児童館、児童クラブ等については、学校の対応に合わせる。休業の期間は、学校は1週間程度、保育園は3日程度と考えている。地域住民に発生した場合は健康課を通じ情報収集を行い、情報の共有化を図りながら対応をするが、基本的に臨時休業の措置はとらないこととなっている。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(加藤教育長) あくまでも教育委員会単独で動かずに、基本は防災対策本部に図ることになる。

(大橋委員長) 他に協議報告事項はないか。

(大橋委員長) これをもって協議報告事項を終了する。

---

(大橋委員長) 本日は、定例会の前に栃尾地域の中野俣小学校、西谷小学校、長岡地域の豊田小学校を訪問した。訪問について、委員の皆さんの意見、感想はいかがか。

(羽賀委員) 非常に勉強になった。中野俣小は、学校を中心に地域づくりをという概念を共有していて、自然環境をいかした教育をしている。西谷小はいろいろな地域から子どもが来ている。災害に関連して心の問題があり、かなり根深い。西谷は保育園がなくなったが、中野俣は保育園があり、児童数が維持されている。今後の対応を考えなければいけない。

(中村委員) 栃尾地域の学校については、山の奥にあっておどろいた。ただ、先生の様子を見ているといきいきとしていた。地域を大事にしていると感じた。学校生活を満喫しているようで、心にゆとりがあるように感じた。豊田小学校については、先生の一生懸命さが顔にでていた。他地域をみて、自分を振り返ることも大事だと思った。

(内藤委員) 中野俣小学校では、かわせみが出迎えてくれた。歓迎されているよう

でうれしく思った。自然環境などうまく特色を活かしており、地域の人と一緒に大切に守っていきこうと一丸になっていた。西谷小学校では、自然を体験できる。地域の方が支援をし、必要なときに手をさしのべていた。伝えるべきことは伝えようとしている。また、給食を一緒に食べ、手伝いについての話が聞けた。「お手伝いをさせよう運動」が根付いてきていると感じた。16名の児童に対し、手厚い指導があり、子どもや先生がいきいきしていた。豊田小学校ではさわやかな授業風景があった。先生の一生懸命さ、地域の支援に感動した。

(加藤教育長) 栃尾地域は小規模の学校ではあるが、行政は環境整備を行い、すごしやすい、学びやすい学校を整備していく必要がある。自然環境は最高であるが、人的、物的環境も整備が必要ではないかと感じた。児童と先生が1対1の学年もあり、社会に出るには少ない人間関係だけでは心配もある。一方、豊田小学校は児童数が多い。同じ授業でも大声を出すため先生も疲れると思う。このせいで多忙感を感じるのかもしれない。これを一般の人たちにも理解をしてもらうのも一つの観点ではないか。10分でも20分でも完全に休憩できるよう配慮が必要だ。アシスタントティーチャーや図書館司書の配置について、評価を受けていることがうれしい。

(大橋委員長) 栃尾地域の学校は、人的な面について、教員はめぐまれていると感じた。教育補助員も一生懸命であった。そのおかげで先生も元気な感じがした。子どもが少ないことについては、交流等が必要。豊田小学校は、地域ボランティアが1,500人登録があり、いろいろなことに取り組んでいる。子どもがいきいきしている。具体的な予算で、応援している教育委員会は評価されていた。

(大橋委員長) 他に意見、質問はないか。

[「なし」と呼ぶ声あり]

(大橋委員長) これをもって本日の定例会を終了する。

---



会議の次第を記載し、その相違ないことを証するために署名する。

長岡市教育委員会委員長

長岡市教育委員会委員

長岡市教育委員会委員